

# 弘前市立博物館 ニュースレター

## No.4

令和5年9月号

Hirozaki City Museum Newsletter

### ■芸術の秋、到来

9月18日(月・祝)をもって、令和5年度企画展2『「バカ」がつくほど愛してる。～津軽塗・こぎん・ねふた～』が終了しました。映画効果もあったのか、5000人を超えるお客様にご来場いただきました。誠にありがとうございました。

10月6日(金)までは展示替えのため休館となりますが、10月7日(土)から新たな展覧会、特別企画展2「THE新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」が始まります。

残暑も落ち着いてきました。芸術の秋、ぜひ、博物館においでください。  
(館長 熊谷)

### ■『「バカ」がつくほど愛してる。』関連イベント～バカ塗りピアノでJAZZLIVE～

9月17日(日)に、企画展関連イベントの最後を飾るジャズライブが開催されました。100名を超えるお客様にご来館いただきました。

今回のライブでは、映画「バカ塗りの娘」劇中で登場した実際のピアノも演奏されました。このピアノは映画を語るうえでなくてはならないキーアイテムで、映画が伝えたかったこと、弘前が誇る津軽塗のすばらしさ、そして弘前のよさといったも

のがこのピアノに集約されていると感じています。

また、お隣の市民会館が、同じ前川建築の兄弟館どうし連携した事業としてぜひ協力したいとお申し出があり、市民会館の舞台スタッフがステージと背景となる庭をライトアップしてくださいました。

津軽塗をまとったピアノ、前川建築の音の響き、そして照明演出が一体となったすばらしいジャズライブでした。

ご来場くださった皆様、演奏してくださった千葉智明クインテットの皆様、ご協力くださった皆様に心よりの感謝を申し上げます。

(館長補佐 川村)



▲ジャズライブの様子 多くのお客様が、ジャズの夕べに酔いしれました

### ■特別企画展2実行委員会設立

9月13日にTHE新版画展実行委員会設立会議が開催されました。実行委員会は、「THE新版画～版元・渡邊庄三郎の挑戦～」の開催に関する事業の円滑な運営を行い、展覧会・イベントの広報や企画への助言などを行うための組織です。

委員長に弘前市教育委員会教育長吉田健、副委員長に東奥日報社常務取締役の遠山仁様、監事に弘前観光コンベンション協会専務理事の白戸孝之様が選任されました。また、顧問として弘前市長櫻田宏、東奥日報社代表取締役会長・主筆の塩越隆雄様が就任されました。

展覧会は、10月7日(土)から11月26日(日)まで開催されます。

(館長補佐 川村)

### ■展覧会を終えて

『「バカ」がつくほど愛してる。』は、タイトルからしてインパクトのあるものだったようで、アップルウェーブの取材でも「どうしてこのタイトルに？」と聞かれました。このタイトルは、もちろん映画「バカ塗りの娘」にインスパイヤーされてつけたもので、「バカ塗り(津軽塗)」に加えて「ねぶたバカ」とバカがつくほど丁寧な手仕事「こぎん刺し」を加えた3つのバカで構成しようというちょっと変わ

った展覧会になったのです。

弘前フィルムコミッションとの協力体制もこれまでにないくらいで、写真展や劇中使用ピアノの展示など、コラボ企画が誕生しました。

たくさんのバカたち(尊敬表現!)が協力してくださったおかげで、本展覧会ができましたし、無事に終わることができました。展覧会やイベントにご協力くださったみなさま、博物館においでくださったみなさまに、心より感謝申し上げます。

(『「バカ」がつくほど愛してる。』

担当学芸員 小田桐)

## ■博物館への資料寄贈申し込みが増えています

博物館では、弘前市を中心に津軽地方の歴史や文化に関する資料を収集しており、随時資料寄贈もお引き受けしております。ただ、寄贈のお申し込み件数は日々増えており、ご対応やお手続きに時間を要することもございます。お問い合わせをいただいた順番にご対応しますので、恐れ入りますがご理解のほどよろしくお願いたします。

なお、当館へ寄贈のお申し込みやお問い合わせがあった際にお伝えしている説明事項を以下にまとめて記載します。迅速な手続きにつながりますので、ご確認ください。

★寄贈をお受けする際はまず資料の情報や保存状況を確認する必要があります。写真で確認する形でも構いません。お問い合わせの際にメール等で写真を合わせてお送りいただくとスムーズです。

★多数の資料の場合、資料状況や数量を確認するため、直接ご自宅等へうかがい資料を拝見させていただくこともございます。

★当館収蔵資料との兼ね合い等から寄贈をお受けできない場合もございます。ご了承ください。

(主事兼学芸員 工藤)

## ■新収蔵資料紹介 建部凌岱「花鳥竹図」(署名:寒葉齋)

建部凌岱は弘前藩の家老喜多村家の次男として生まれ、弘前で文武両道の教育を施されますが、出奔して江戸と京都を拠点として各地を遊歴し俳諧で身を立てました。しかし、古代の片歌の唱道者として開眼すると俳諧を捨て、そのほか、歌人・随筆家・読本作家・国学者としても活躍し、才能を発揮しました。

今年度、博物館に収蔵された「花鳥竹図」は、細部を気にしない闊達



な筆遣いで描かれています。目を患った凌岱は、精密細緻な画風を捨てたために、かえって自由に描けるようになったのかもしれませんが。

(主査兼学芸員 小田桐)

## ■受付のひとりごと

博物館のロビーは天井まで全面ガラス張りになっているので、いつもまるで一枚の屏風のようなさまざまな風景を楽しむことができます。春の桜吹雪、夏の瑞々しい緑、秋の紅葉、冬の水墨画のような雪景色…そして時に訪れる野生のお客さま(?)達。ロビーの展望を楽しみに来館されるお客様も多い中、時折訪れる小鳥や狸、兎、蛇などに歓声や悲鳴を上げるお客様も多く、かくいう私も受付で「次はどんな生き物が現れるかな?」と密かに楽しみにしています。

(事務員 三浦)

## ■Fb&インスタ! ~8・9月編~

博物館では8~9月にかけて30件以上の記事をSNSに投稿しました。中でも最も反響があったのは…トークイベント「ねぷたあれこれ」の記事(9/13投稿)でした!大盛り上がるのねぷたトークを当日見た方も見られなかった方もぜひ博物館Fbとインスタをチェックして下さい!

(主事 児玉)



▲実施風景。投稿では動画も…!?